



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社マツキヨココカラ&カンパニー  
 (旧会社名 株式会社マツモトキヨシホールディングス)  
 コード番号 3088 URL https://www.matsukiyocokokara.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 清雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ管理統括財務戦略室長 (氏名) 西田 浩  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日  
 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(TEL) 03-6845-0005

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日~2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	507,857	23.4	27,795	18.6	30,232	19.7	28,763	76.3
2021年3月期第3四半期	411,666	-	23,441	-	25,265	-	16,318	-

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 25,445百万円 ( 27.3%) 2021年3月期第3四半期 19,987百万円 ( -%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	248.72	248.63
2021年3月期第3四半期	158.98	158.91

1) 2022年3月期第1四半期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しております。なお、原則的な取扱いに従って、新たな会計方針を過去の期間の全てに遡及適用しており、2021年3月期第3四半期の連結経営成績を組替えております。これに伴い、2021年3月期第3四半期の対前期増減率は記載しておりません。

2) 2022年3月期の連結業績は、旧株式会社マツモトキヨシホールディングスの第2四半期までの連結業績と経営統合後の当社(株式会社マツキヨココカラ&カンパニー)の第3四半期連結業績を合算したものととなります。

3) 当第3四半期連結累計期間における上記営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益には、当社が株式会社ココカラファインとの経営統合(経営統合日:2021年10月1日)に伴い発生した、のれん償却費1,744百万円が含まれております。これを控除した後の営業利益は29,539百万円(26.0%)、経常利益は31,977百万円(26.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は30,507百万円(87.0%)であります。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	656,230	465,664	71.0	3,262.81
2021年3月期	368,936	246,220	66.7	2,398.12

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 465,621百万円 2021年3月期 246,177百万円

2022年3月期第1四半期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しております。なお、原則的な取扱いに従って、新たな会計方針を過去の期間の全てに遡及適用しており、2021年3月期の連結財政状態を組替えております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	-	35.00	-	35.00	70.00
2022年3月期	-	35.00	-	-	-
2022年3月期(予想)	-	-	-	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	744,000	36.6	38,200	21.0	41,700	22.1	35,200	62.9	304.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しており、当該基準に基づいた予想となっております。なお、原則的な取扱いに従って、新たな会計方針を過去の期間の全てに遡及適用しており、前期実績（2021年3月期通期）の連結経営成績を組替えております。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規 2社（社名） 株式会社ココカラファイングループ  
（旧株式会社ココカラファイン） 除外 社（社名）  
株式会社ココカラファインヘルスケア

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	142,966,710株	2021年3月期	109,272,214株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	260,849株	2021年3月期	6,618,022株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	115,646,751株	2021年3月期3Q	102,649,622株

（注）1）期末自己株式数には、「役員報酬B I P信託口」及び「株式付与E S O P信託口」が保有する当社株式（2022年3月期3Q 126,318株、2021年3月期 127,394株）が含まれております。また、「役員報酬B I P信託口」及び「株式付与E S O P信託口」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料の4ページをご参照下さい。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(追加情報) .....	10
(セグメント情報) .....	10
(企業結合等関係) .....	12
(収益認識関係) .....	15
3. 補足情報 .....	16
売上及び仕入の状況 .....	16

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日~2021年12月31日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響が残る中、企業収益や雇用・所得環境に持ち直しの動きがみられたものの、厳しい状況で推移いたしました。

ドラッグストア業界におきましても、業種・業態を越えた競合企業の新規出店、商勢圏拡大に向けた新たなエリアへの侵攻、M&Aによる規模拡大、同質化する異業種との競争、それらが要因となる狭小商圏化など、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が継続しております。

このような環境の中、旧株式会社マツモトキヨシホールディングス(当社)と旧株式会社ココカラファインは、2021年10月1日に経営統合を実施し、当社は、株式会社マツキヨココカラ&カンパニーへ商号を変更いたしました。当社グループの重点戦略は国内とグローバルに分け設定し、国内戦略として「お客様のライフステージに応じた価値提供」を戦略テーマに3つの重点戦略、①利便性の追求-お客様との繋がりへの深化、②独自性の追求-体験やサービス提供の新化、③専門性の追求-トータルケアの進化と、グローバル戦略として「アジア市場での更なるプレゼンス向上」を戦略テーマに④グローバル事業の更なる拡大を重点戦略として設定し、経営統合によるシナジー実現に取り組みました。2021年11月に当社の誕生を記念したPB商品として敏感肌向けスキンケアシリーズ「RECIPEO(レシピオ)」を株式会社コーセーと共同開発いたしました。2021年12月末現在における当社グループの顧客接点数は、1億1,075万となり、国内店舗数は3,328店舗(うち調剤薬局数853店舗、健康サポート薬局数132店舗)となりました。今後も4つの重点戦略を実行することで収益改善を図ってまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における主な経営成績は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	411,666	507,857	96,190	23.4
営業利益	23,441	27,795	4,354	18.6
経常利益	25,265	30,232	4,967	19.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,318	28,763	12,444	76.3

このうち、当第3四半期連結累計期間における上記営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益には、当社が株式会社ココカラファインとの経営統合(経営統合日:2021年10月1日)に伴い発生した、のれん償却費1,744百万円が含まれております。これを控除した後の営業利益は29,539百万円(26.0%)、経常利益は31,977百万円(26.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は30,507百万円(87.0%)であります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

2021年10月1日付で実施された株式会社ココカラファイングループ（旧株式会社ココカラファイン）との経営統合に伴い、報告セグメントを従来の「小売事業」「卸売事業」「管理サポート事業」から「マツモトキョシグループ事業」「ココカラファイングループ事業」「管理サポート事業」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
マツモトキョシ グループ事業	売上高	407,256	407,771	514	0.1%
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	23,881	25,340	1,459	6.1%
ココカラファイ ングループ事業	売上高	—	93,412	93,412	—
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	—	2,520	2,520	—
管理サポート 事業	売上高	302,111	345,961	43,850	14.5%
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	△628	△254	373	△59.5%
調整額	売上高	△297,700	△339,288	△41,587	14.0%
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	188	189	0	0.5%
合計	売上高	411,666	507,857	96,190	23.4%
	セグメント利益又は セグメント損失(△)	23,441	27,795	4,354	18.6%

このうち、当第3四半期連結累計期間における上記ココカラファイングループ事業のセグメント利益2,520百万円には、当社が株式会社ココカラファインとの経営統合（経営統合日：2021年10月1日）に伴い発生した、のれん償却費1,744百万円が含まれております。これを控除した後のセグメント利益は4,264百万円であります。

#### <マツモトキョシグループ事業>

4つの重点戦略に対して、①利便性の追求-お客様との繋がり深化として、社会全体のデジタル化が進み、お客様のライフスタイルが変化しつつある中で、一人ひとりのお客様と深く繋がっていくことでニーズを的確に捉え、最も身近な存在となる必要があると考えております。そのため、デジタルと店舗網を活用したお客様に届ける仕組みづくり、様々な買い物スタイルの提供など、利便性を追求していくことで、お客様により深く寄り添う営業を目指しております。マツモトキョシグループの顧客接点数は、2021年12月末現在、8,518万まで拡大いたしました。

②独自性の追求-体験やサービス提供の新化として、激しい競争環境の中で、お客様との様々な接点から蓄積されたデータと高いマーケティング分析力を活かし、お客様の価値観に基づいた商品・サービスや店舗モデルの開発、メーカー様向け広告配信事業の展開など、マツモトキョシグループならではの独自性を追求していくことで、お客様に選ばれる企業を目指しております。PB商品につきましては、「matsukiyo」「matsukiyo LAB」「ARGELAN(アルジェラン)」「THE RETINOTIME(ザ・レチノタイム)」からそれぞれ新商品を発売いたしました。

③専門性の追求-トータルケアの進化として、少子高齢化が進み、健康長寿社会の実現を目指すわが国においては、様々なお客様のライフステージに応じた質の高いサービスを提供することで、地域社会により大きな安心と喜びを提供していくことが求められていると考えております。そのため、セルフメディケーションの推進やオンラインを活用した服薬指導・接客などに加え、心と身体の両面でのビューティーケアなど、専門性を追求していくことで、地域包括ケアシステムを支え、すべての人がいつまでも美しく、健康で心豊かな生活を送れるよう取り組んでおります。調剤薬局数は366店舗となり、厚生労働省の認可を受けた健康サポート薬局数は39店舗となりました。また、薬局経営支援サービスである調剤サポートプログラムの加盟店舗数は149店舗まで拡大いたしました。

④グローバル事業の更なる拡大では、アジアを中心とした新たな進出国の開拓や海外店舗展開、越境EC事業の拡大を図るため、海外SNSの活用やグローバル会員獲得によるアプローチ強化、グローバルで活躍する人材の開発、海外で支持される商品の開発などに積極的に取り組むことで、美と健康への意識が高まっているアジア地域での事業規模拡大とプレゼンス向上を目指しております。海外では、タイ王国で23店舗、台湾で18店舗、ベトナム社会主義共和国で2店舗の合計43店舗を展開しております。

<ココカラファイングループ事業>

「利便性の追求-お客様との繋がり深化」「独自性の追求-体験やサービス提供の新化」「専門性の追求-トータルケアの進化」という3つの国内重点戦略に対して、マツモトキヨシグループ事業と同様の取組みを実行しました。なお、顧客接点数は、2021年12月末現在、2,557万、調剤薬局数は487店舗となり、健康サポート薬局数は93店舗となりました。

国内店舗の出退店の状況につきましては、次のとおりであります。

(単位：店舗)

	2021年9月30日 現在の店舗数	出店	閉店	2021年12月31日 現在の店舗数
マツモトキヨシグループ (注) 1	1,787	25	7	1,805
ココカラファイングループ (注) 2	1,512	18	7	1,523
合計	3,299	43	14	3,328

- (注) 1. 2021年9月30日現在の店舗数は旧株式会社マツモトキヨシホールディングス店舗数となります。  
2. 2021年9月30日現在の店舗数は旧株式会社ココカラファイン店舗数となります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて2,872億94百万円増加して6,562億30百万円となりました。これは主にのれんが1,314億87百万円増加したことや、商品が574億90百万円増加したこと及び現金及び預金が268億56百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、678億49百万円増加して1,905億65百万円となりました。これは主に買掛金が485億74百万円増加したこと及び流動負債その他が80億14百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、2,194億44百万円増加して4,656億64百万円となりました。これは主に、株式会社ココカラファインとの経営統合により、資本剰余金が1,829億33百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年10月1日に公表した連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	38,517	65,374
受取手形及び売掛金	27,417	53,885
商品	85,788	143,278
貯蔵品	655	724
その他	23,380	40,138
貸倒引当金	△62	△45
流動資産合計	175,696	303,356
固定資産		
有形固定資産		
土地	39,933	51,808
その他	32,856	55,997
有形固定資産合計	72,789	107,805
無形固定資産		
のれん	4,029	135,517
その他	4,861	6,843
無形固定資産合計	8,891	142,361
投資その他の資産		
投資有価証券	66,909	24,986
敷金及び保証金	37,766	60,787
その他	6,972	17,208
貸倒引当金	△89	△274
投資その他の資産合計	111,559	102,707
固定資産合計	193,240	352,874
資産合計	368,936	656,230

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	55,515	104,090
未払法人税等	5,660	5,103
短期借入金	—	896
1年内返済予定の長期借入金	—	11
賞与引当金	3,872	2,852
ポイント引当金	64	153
契約負債	2,843	6,933
資産除去債務	—	8
その他	17,295	25,309
流動負債合計	85,251	145,358
固定負債		
長期借入金	18,400	18,646
債務保証損失引当金	349	349
株式給付引当金	164	168
役員株式給付引当金	39	39
退職給付に係る負債	282	5,878
資産除去債務	7,731	10,190
その他	10,496	9,933
固定負債合計	37,464	45,206
負債合計	122,715	190,565
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	22,051	22,051
資本剰余金	23,003	205,937
利益剰余金	210,385	230,438
自己株式	△20,679	△856
株主資本合計	234,761	457,571
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,393	8,112
為替換算調整勘定	—	△69
退職給付に係る調整累計額	22	7
その他の包括利益累計額合計	11,415	8,050
新株予約権	43	43
純資産合計	246,220	465,664
負債純資産合計	368,936	656,230

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	411,666	507,857
売上原価	283,475	345,041
売上総利益	128,190	162,815
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	20	31
給料及び手当	39,297	50,249
賞与引当金繰入額	1,963	2,739
退職給付費用	826	1,173
地代家賃	26,921	35,163
その他	35,719	45,662
販売費及び一般管理費合計	104,749	135,020
営業利益	23,441	27,795
営業外収益		
受取利息	66	73
受取配当金	356	358
固定資産受贈益	305	393
発注処理手数料	827	1,073
その他	486	960
営業外収益合計	2,042	2,859
営業外費用		
支払利息	33	43
現金過不足	16	3
持分法による投資損失	89	304
その他	79	72
営業外費用合計	219	422
経常利益	25,265	30,232
特別利益		
固定資産売却益	16	0
投資有価証券売却益	309	—
段階取得に係る差益	—	10,618
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	36	—
特別利益合計	361	10,618
特別損失		
固定資産売却損	—	268
固定資産除却損	145	183
店舗閉鎖損失	95	235
減損損失	312	339
新型コロナウイルス感染症による損失	569	383
その他	—	9
特別損失合計	1,123	1,420
税金等調整前四半期純利益	24,503	39,431
法人税、住民税及び事業税	7,509	9,351
法人税等調整額	675	1,317
法人税等合計	8,184	10,668
四半期純利益	16,318	28,763
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,318	28,763

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	16,318	28,763
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,659	△3,271
退職給付に係る調整額	—	△7
持分法適用会社に対する持分相当額	8	—
為替換算調整勘定	—	△38
その他の包括利益合計	3,668	△3,317
四半期包括利益	19,987	25,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,987	25,445
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年5月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式800,000株の取得を行っております。また、2021年10月1日に、当社を株式交換完全親会社、株式会社ココカラファインを株式交換完全子会社とする株式交換により経営統合を行いました。当社は、本件株式交換にあたり、株式会社ココカラファインの普通株式1株に対して当社の普通株式1.7株を割当て交付し、自己株式7,160,798株の処分を行っております。この結果、資本剰余金が182,933百万円増加、自己株式が19,823百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が205,937百万円、自己株式が856百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社は販売促進を目的とするポイントカード制度により使用ポイントに相当する財又はサービスの提供を行っております。従来は、付与したポイントの使用に備えるため、過去の使用実績率に基づき将来使用されると見込まれる額をポイント引当金として計上し、ポイント引当金繰入額を販売費及び一般管理費に計上しておりました。当会計方針の変更により収益認識会計基準の対象となる契約についてはポイントの履行義務を識別し、使用実績率等を考慮して算定した独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。これにより販売促進費等の一部を売上高から控除しております。

また、代理人に該当する一部取引については他の当事者に支払う額を控除した純額を売上高に計上しております。

当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期連結累計期間の売上高が9,664百万円減少、売上原価が1,010百万円減少、販売費及び一般管理費は8,227百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ425百万円減少しております。また、前連結会計年度の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は275百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、収益認識会計基準の対象となる契約については前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「ポイント引当金」を、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

## (追加情報)

## (新型コロナウイルス感染症に関する会計上の見積りの仮定)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響は、免税売上・都市部の人出については2022年3月期末までに新型コロナウイルス感染症流行前の状態へ回復するものと仮定して会計上の見積りを行っていましたが、免税売上は、2023年3月期の第2四半期以降に回復を開始するものと仮定を変更しております。また、免税売上以外は、2023年3月期末まで郊外型店舗はコロナ特需を一定規模残しつつ、都市型店舗についても、感染症流行前の一定程度まで回復すると仮定を変更して、固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益計算 書計上額(注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	407,199	—	4,467	411,666	—	411,666
セグメント間の 内部売上高又は振替高	56	—	297,643	297,700	△297,700	—
計	407,256	—	302,111	709,367	△297,700	411,666
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	23,881	—	△628	23,253	188	23,441

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額188百万円には、セグメント間取引消去188百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

## (固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額312百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキヨシグループ事業」で275百万円、「管理サポート事業」で44百万円となり、連結決算における消去・調整で△7百万円となっております。

## (のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益計算 書計上額(注)2
売上高						
外部顧客への売上高	407,641	93,411	6,803	507,857	—	507,857
セグメント間の 内部売上高又は振替高	129	1	339,157	339,288	△339,288	—
計	407,771	93,412	345,961	847,145	△339,288	507,857
セグメント利益又は セグメント損失(△)	25,340	2,520	△254	27,606	189	27,795

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額189百万円には、セグメント間取引消去189百万円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額312百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキヨシグループ事業」で347百万円、連結決算における消去・調整で△7百万円となっております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社ココカラファイン(2021年10月1日付で商号を株式会社ココカラファイングループに変更しております)及びその連結子会社を連結の範囲に含めたことにより、「ココカラファイングループ事業」においてのれんが132,569百万円発生しております。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分の変更)

2022年10月1日付で実施された株式会社ココカラファイン(2021年10月1日付で商号を株式会社ココカラファイングループに変更しております)との経営統合に伴い、当第3四半期連結会計期間より報告セグメントを従来の「小売事業」「卸売事業」「管理サポート事業」から「マツモトキヨシグループ事業」「ココカラファイングループ事業」「管理サポート事業」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(収益認識会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

## (企業結合等関係)

## (株式会社ココカラファインとの経営統合)

当社と株式会社ココカラファインは、2021年2月26日付で、両社間の経営統合契約及び本経営統合のための一連の取引の一環として当社を株式交換完全親会社とし、株式会社ココカラファインを株式交換完全子会社とする、株式交換契約を締結しております。当該株式交換契約は、2021年6月29日に開催された定時株主総会において承認されました。これに基づき、当社は2021年10月1日を効力発生日として株式交換を実施し、同日付で商号を株式会社マツキヨココカラ&カンパニーに変更しました。また、当社は2021年4月28日に開催した取締役会の決議に基づき、本経営統合のための一連の取引の一環として新設分割計画の作成及び吸収分割契約の締結しております。当該新設分割計画及び吸収分割契約は、2021年6月29日に開催された定時株主総会において、承認されました。これに基づき、当社は2021年10月1日を効力発生日として新設分割及び吸収分割を実施しております。

本株式交換の効力発生日に先立ち、株式会社ココカラファインの普通株式は、株式会社東京証券取引所市場第一部において、2021年9月29日付で上場廃止（最終売買日は2021年9月28日）となりました。

## 取得による企業結合

## (1) 企業結合の概要

## ① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ココカラファイン

(2021年10月1日付で商号を株式会社ココカラファイングループに変更しております)

事業の内容 ドラッグストア事業・調剤事業・介護事業で構成される企業グループの運営

## ② 企業結合を行った主な理由

ドラッグストア業界は業種・業態を越えた競合企業の新規出店、商勢圏拡大に向けた新たなエリアへの侵攻、M&Aによる規模拡大、同質化する異業種との競争、それらが要因となる狭小商圏化など、厳しい経営環境が継続しております。一方、日本の社会保障費が増大する中、ドラッグストア業界は、地域包括ケアシステム構築の重要な役割を担うことが期待されていることに加え、診療報酬改定への対応も求められております。

以上のような大変革期を飛躍へ向けた成長機会と捉え、当社と株式会社ココカラファインは、本経営統合により国内で売上高1兆円・3,000店舗を有する社会・生活のインフラ企業となります。また、両社の顧客基盤を活用したOne to Oneマーケティングを確立することで、消費者の購買動向に革新を起こしてまいります。そして、ヘルス&ビューティ分野で圧倒的なプレゼンスを獲得することで国内ドラッグストア業界を力強くけん引することを目指しております。また、ドラッグストアとしての社会的使命である地域包括ケアシステムの構築を推進するとともに、美と健康の意識が高まっているアジア地域における事業基盤を確立し、将来的には「美と健康の分野でアジアNo.1」を目指すため、経営統合の判断に至りました。

## ③ 企業結合日

2021年10月1日

## ④ 企業結合の法的形式

株式会社マツモトキヨシホールディングスを株式交換完全親会社、株式会社ココカラファインを株式交換完全子会社とする株式交換

## ⑤ 結合後企業の名称

株式会社マツキヨココカラ&カンパニー

(旧会社名 株式会社マツモトキヨシホールディングス)

## ⑥ 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 20.05%

企業結合日に追加取得した議決権比率 79.95%

取得後の議決権比率 100.0%

## ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が株式を対価として株式会社ココカラファインの全株式を取得したことによるものであります。

- (2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間  
2021年10月1日から2021年12月31日まで

- (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	企業結合直前に保有していた株式会社ココカラファインの株式の企業結合日における時価	48,716百万円
	企業結合日に交付した当社の普通株式の時価	206,315 "
取得原価		255,031百万円

- (4) 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

① 株式の種類別の交換比率及び交付した株式数

会社名	株式会社マツモトキヨシホールディングス (株式交換完全親会社)	株式会社ココカラファイン (株式交換完全子会社)
本株式交換に係る株式交換比率	1	1.70
本株式交換により交付する株式数	株式会社マツモトキヨシホールディングスの普通株式：40,854,516株	

② 株式交換比率の算定方法

株式会社マツモトキヨシホールディングスは、大和証券株式会社、株式会社ココカラファインは三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社を、両社から独立したファイナンシャル・アドバイザー及び第三者算定機関として株式交換比率の算定を依頼し、提出された報告書に基づき当事者間で協議の上、算定しております。

- (5) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用 208百万円

- (6) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 10,618百万円

- (7) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額

132,569百万円

なお、のれん金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

② 発生原因

主として今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

19年間にわたる均等償却

## 共通支配下の取引等

本経営統合のための一連の取引の一環として実施した新設分割及び吸収分割の概要は以下のとおりです。

## (1) 取引の概要

	①新設分割	②吸収分割	③吸収分割
対象となった事業の内容	株式会社マツモトキョシその他の子会社等の株式の保有及び経営管理等	当社の営業企画・運営支援機能等	株式会社ココカラファインの本部機能
企業結合日	2021年10月1日	同左	同左
企業結合の法的形式	当社を分割会社、新たに設立する株式会社マツモトキョシグループを新設会社とする新設分割	当社を分割会社、株式会社MCCマネジメント(旧MKCF分割準備株式会社)を承継会社とする吸収分割	株式会社ココカラファインを分割会社、当社を承継会社とする吸収分割
結合後企業の名称	株式会社マツモトキョシグループ(当社の連結子会社)	株式会社MCCマネジメント(当社の連結子会社)	株式会社マツキヨココカラ&カンパニー

	④吸収分割	⑤吸収分割	⑥吸収分割
対象となった事業の内容	株式会社ココカラファインの営業企画・運営支援機能等	株式会社ココカラファインヘルスケアの本部機能	株式会社ココカラファインヘルスケアの営業企画・運営支援機能等
企業結合日	2021年10月1日	同左	同左
企業結合の法的形式	株式会社ココカラファインを分割会社、株式会社MCCマネジメントを承継会社とする吸収分割	株式会社ココカラファインヘルスケアを分割会社、当社を承継会社とする吸収分割	株式会社ココカラファインヘルスケアを分割会社、株式会社MCCマネジメントを承継会社とする吸収分割
結合後企業の名称	株式会社MCCマネジメント(当社の連結子会社)	株式会社マツキヨココカラ&カンパニー	株式会社MCCマネジメント(当社の連結子会社)

## その他取引の概要に関する事項

取得による企業結合(1)企業結合の概要②企業結合を行った主な理由をご参照ください。

## (2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイン グループ事業	管理サポート 事業	
小売				
医薬品	122,590	34,417	—	157,008
化粧品	139,301	23,170	—	162,472
雑貨	86,962	22,990	—	109,952
食品	38,745	10,758	—	49,504
その他	20,042	2,073	6,803	28,919
顧客との契約から生じる収益	407,641	93,411	6,803	507,857
外部顧客への売上高	407,641	93,411	6,803	507,857

## 3. 補足情報

売上及び仕入の状況

## (1) 事業部門別売上状況

当第3四半期連結累計期間の売上実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
マツモトキヨシグループ事業	407,641	100.1%
ココカラファイングループ事業	93,411	—%
管理サポート事業	6,803	152.3%
合計	507,857	123.4%

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 会計方針の変更に記載とおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業部門別売上も同様に変更しております。

3. 第3四半期連結会計期間より、報告セグメントを「小売事業」「卸売事業」「管理サポート事業」から「マツモトキヨシグループ事業」「ココカラファイングループ事業」「管理サポート事業」に変更しております。

## (2) 商品別売上状況

当第3四半期連結累計期間の売上実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	157,008	135.0%
化粧品	162,472	114.1%
雑貨	109,952	120.2%
食品	49,504	125.2%
合計	478,937	122.9%

(注) 1. 商品別売上状況は管理サポート事業を除いております。また、上記の金額には営業収入(テナントからの受取家賃及びフランチャイジーからのロイヤルティ収入等)は含まれておりません。

2. 会計方針の変更に記載とおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、商品別売上も同様に変更しております。

なお、前年同期比については、変更後の商品別売上により作成したものを記載しております。

## (3) 商品別仕入状況

当第3四半期連結累計期間の仕入実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	94,386	135.6%
化粧品	110,605	109.6%
雑貨	79,002	116.8%
食品	43,567	125.5%
合計	327,562	120.1%

(注) 1. 商品別仕入状況は管理サポート事業を除いております。

2. 会計方針の変更に記載とおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、商品別仕入も同様に変更しております。

なお、前年同期比については、変更後の商品別仕入により作成したものを記載しております。